【様式１】　平成２８年度「岐 阜 県 ふ る さ と 教 育 表 彰 」 実 践 報 告 書

市町村名	美濃加茂市	学 校 名	美濃加茂市立山之上小学校			
校 長 名	髙井　克己	対象学年	４年・５年・６年・全校	人 数	２２人・２４人・３４人・１５５人	
活 動 名	環境水路調査（４年生） 米づくり（５年生） 梨づくり（６年生） アベマキの天板づくり （５・６年生での２年間） ふるさと祭り（全校）	時間数	４年生（５時間） ５年生（１０時間） ６年生（１０時間） ５年生（５時間） ６年生（１０時間） 全校（４時間）	継続年数	５年以上 ２０年以上 ２０年以上 ２年 ３年 ２年	
題　　材	① 自然環境（山野・河川・動物・植物・その他） ［　地域に自生するアベマキの利用・環境水路　］ ② 歴史（出来事・史跡・先人・その他）　［白隠禅師　］ ③ 文化（芸能・芸術・民話・風習・その他）　［縄ない・餅つき・山之上こども音頭］ ④ 地場産業（農業・水産業・伝統工芸・その他）　［米づくり・梨づくり　］ ⑤ 絆を深め、よりよいふるさとをつくる活動［地域講師との体験活動・地域行事への参加］ ⑥ その他（　地元保育園との交流活動　）　［　］					
複数年継続するための工夫改善	・学校の行事や取組を地域に常に発信することを心がけ，体験活動における地域講師の依頼を積極的に働きかけ，地域から学ぶ機会を設定した。また，地域講師の方への感謝の気持ちや体験活動で学んだことを，どのように伝えていったらよいかを考えさせ，地域の一員としての自覚をもたせた。 ・永年にわたって地域で行われている「山之上地区ふるさと祭り」への児童への参加を促すために，学校公開日とし，地域のよさを感じる場，人々との関わりをもたせる場とした。					

１　ねらい

体験活動や地域の方々との関わりの中で，ふるさと山之上の自然や文化，産業を学ぶことを通して，ふるさとのよさを感じ，ふるさとへの愛着心や誇りを育てる。

２　活動の概要

（１）　環境水路調査

・４年生児童が学校近くの間伐材を活用した環境水路で可茂農林事務所等の指導者を招いて，環境水路の仕組みを学び，水質調査や生き物調査を行う。

・生き物調査をもとに，水路内の環境や環境水路の生態系を学び，身近な環境について考える。

・市農林課を招いて，森林の働きや森林の整備活用について学ぶ。ふるさとの資源を考える。

（２）　米づくり

・５年生児童が学校田で地域講師を招いて，米づくりの一連の作業を体験する。地域講師と触れ合うことで，地域の人々に支えられていることを感じる。

・手作業を実際に行い，大変さを知るとともに，機械化によって作業の効率が図れること，収穫までには多くの手間がかかること，収穫の喜びを体感する。

・収穫したもち米は，「ふるさと祭り」で餅つきを行うと同時に，全校児童や保護者，地域講師と一緒に味わったり，販売したりする。

（３）梨づくり

・６年生児童が学校梨園で地域講師を招いて，梨づくりの一連の作業を体験する。地域講師と触れ合うことで，地域の人々に支えられていることを感じる。また，地域の特産物が守られていることや地域の産業に誇りをもってみえることを感じる。

・手作業の大変さを知るとともに，それぞれの作業の意味を学ぶ。収穫までには多くの手間がかかること，収穫の喜びを体感する。

・ＰＲポスターを作成し，農園や販売所に掲示を依頼する。農園主と話をすることで，地域の特産品をより身近に感じることができる。

・収穫した梨や，それらを使って作った「梨ジャム」を，全校児童と一緒に味わう。

（４）アベマキの天板づくり

・地域の里山に自生しているアベマキを有効に活用しようと，市農林課，森林組合の協力で，里山の自然を知るとともに体験活動を行う。

・５年生では，里山に入りその場で集めた木々を利用して「木工教室」を行う。また，アベマキの伐倒作業を見学し，樹木の皮を削る体験活動を行う。

・６年生では，「天板づくり」を行う。県森林アカデミーの協力で，アベマキを使って，児童机

の天板を作る。作った天板は，次年度入学児童の机に使われる。その机を６年間使用し，卒業時には天板を記念品に加工して持ち帰り，また，次年度入学児童の天板を作る。

（５）ふるさと祭り

・地域自治会主催で毎年行われている「山之上ふるさと祭り」に合わせて，共催する立場として学校公開日として，「ふるさと祭り」を行った。

・各学年が地域講師のもと体験的な活動を通して，地域の人々の知恵や昔からの生活などを知り，ふるさと山之上のよさを知るとともにふるさとを大切にしようとする心を育てることをねらった。

１年生：昔の遊び（１年教室）→地域のお年寄りとお手玉やコマまわし，けん玉等

２年生：クリスマスリース作り（２年教室）

→地域講師を招きさつまいものつるを使ってリースをつくる。

３年生：福祉体験（教室，廊下，階段等）

→校区の高齢化が進む中，社会福祉協議会職員を講師にお年寄りの体の状態やお年寄りへの接し方，思いやり，今までの生活を支えてきてくださったことへの感謝の気持ちをもつことの大切さなどについての講話を聴く。疑似体験をする。

４年生：木工教室（４年教室）

→美濃加茂市役所農林課，森林組合，森林アカデミーの協力を得て，森の木や木の実を使ったオブジェの共同作品をつくる。森林の働きについても学ぶ。

５年生：もちつき（ピロティ―）→地域講師を招きもちつきを行う。きなこ餅づくり。もち米の販売。

６年生：わら細工（なかよし広場）→地域講師を招き縄ないと正月飾りを作る。

・「ミニワールドルーム（英語教室）」を開放し，保育園児とその保護者，地域の方に英語の歌，英語本の読み聞かせ等を行う。

・開会セレモニーでは，「山之上こども音頭」を発表する。

・「５００年に１度の名僧」と言われ，山之上を修業の場として選んだ白隠禅師僧について全校で学び，白隠禅師顕彰会主催の書道展に全校児童が書写作品を応募する。

３　地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子

・年間を通し，それぞれの学年が地域講師や諸団体との連携を図って活動を進めてきた。学校の活動や児童の様子を知ってもらうとともに，地域からの助言や支援をいただくことができた。「〇〇の先生」と，児童から進んで声をかけたり，自ら学ぼうと質問したりする姿も増えてきた。

・「開かれた学校，地域とともにある学校」を心がけ，その姿の表れとしてあいさつ指導に取り組んできた。児童のあいさつに変容が見られ，地域の方から「あいさつの声が大きくなってきた。」「来校時のあいさつが大変気持ちが良い。」と意見をいただけるようになった。また，登下校の様子についても，気になる姿があると，注意していただけたり，教えていただけたりするようになってきた。学校に目が向いていることを感じている。

・校区の地区変化に伴い，古くから歌い継がれている「山之上こども音頭」の歌詞を編集しなおした。（新しい地区名を追加した）しばらくの間歌われていなかったが，市の音楽会で歌ったり，地域の行事で地域の方と一緒に歌ったりできるようにした。全校で練習会を行い，まちづくり協議会の方を講師として招いた。夏祭りには，「山之上こども音頭コンテスト」を実施した。

・地域にある保育園とのつながりを見直し，ふれあう機会を設定するようにした。「山之上こども音頭」の練習会や，５年生の米づくりの体験（田植え・稲刈り）への参加を呼びかけた。今後，小学校の図書室での本の貸し出しも計画している。入学時の不安を少しでも軽減できたらと考えている。

４　活動による児童生徒の変容（伸長・成長等）

・地域の様々な年齢や立場の方々とのふれあいを通して，地域のよさを知ったり，地域の方に支えられているという気持ちを味わったりすることができた。また，コミュニケーション力を育てるきかっけにもなった。

・体験活動を通して，仲間と協力する楽しさや一つのことをやり遂げる素晴らしさを感じることができた。仲間に進んで声をかける力，「活動の見通しをもつ」力も育ちつつある。

・他学年の活動を知ることで，「来年はこれだな。早くこれをやりたいな。」という，楽しみをもつことができた。あこがれをもつことにもつながっている。